

## 緩和ケアの *Quality Indicator*

宮下光令、佐藤一樹、森田達也、濱島ちさと、祖父江友孝

Palliative Care Research 2007;2(2):401-415

緩和ケアにおけるケアの質保障・評価は重要な課題である。近年、欧米を中心として、既存のデータベースや診療録から簡便に抽出可能な質の評価指標（Quality Indicator；QI）の開発が行なわれている。本稿は、主に海外における、緩和ケアの分野に関するQIの開発と実際の測定状況についてのレビューである。

< 方法 > 医学文献データベース MEDLINE(1950-2007 Jan)を用い、「Neoplasms/ or Palliative care/ or Palliative.mp. or Terminal Care/ or terminal.mp. or Hospices/or hospice.mp.」and「Quality Indicators, Health Care/ or quality indicator.mp.」の検索語で文献検索を行い84文献を抽出。

これらの文献における引用文献や関連文献など、ハンドリサーチを行い文献を追加収集。

それらの文献から、QIの抽出方法やセッティングによる分類を行ない、その結果「データベースから抽出するQI」「診療記録から抽出するQI」「その他」に大別された。

< 結果 > 1. データベースから抽出するQI (表1)

・Earle(米国、2003)

がん緩和ケアの質の低さの指標として、「最後の化学療法から死までの時間が短い」「死亡場所：病院死が在宅死に比して高い」「ERへの入室頻度が多い」「終末期での病院入院日数が長い、ICU入室日数が長い」「ホスピスプログラムへ入った人の割合が少ない」「新規化学療法を始めた日から死までの時間が短い」「死が近い時に、ホスピスプログラムに入っている」の7点を挙げた。

痛みや症状マネジメント、コミュニケーション、意思決定への参加、事前指示などは現状では利用が困難な質の指標と結論づけている

実際の測定は、米国におけるSEER(surveillance, epidemiology and end results)というがん登録制度とMedicareによる医療費データを用いて行ない、診療記録による調査との照合で、「ホスピスへの参加」以外の項目については、高い感度・特異度を有することを示している。

・Grunfeld(カナダ、2006)

Earleらによる指標に加え、「ケアの継続性」「ケアの期間と場所」「有害事象(転倒、

感染、褥創、創傷)」「死が近い時の緩和ケアへの参加」「緩和ケアへのアクセス」「骨転移によるコントロール不良の骨痛に対する放射線治療」「嘔気を伴う化学療法における有効な制吐剤の使用」「多職種ケア」「ケアへのアクセス」を含む 15 の指標を挙げた。

データベースから抽出する QI は、調査方法が確立すれば信頼性が高いが、抽出できる変数には限界があり、緩和ケアの全人的側面を評価することは困難。死亡前の化学療法は過度な治療という側面だけでなく、治療関連死や緩和的化学療法との区別が難しいという問題がある。

## 2 . 診療記録から抽出する QI

Wenger(米国、2001)、Chodosh(米国、2001)による 表 2

診療記録から抽出する QI には、データベースから抽出する QI に比べて、より多面的な緩和ケアの側面を評価できる可能性があるが、その反面 IF-THEN 方式(…の場合…が記載されている)による抽出では、IF の部分を同定することが診療録からは難しく、トリガーされる対象が少ないことが問題となっている。

## 3 . そのほかの QI に関する先行研究

Clarke ら ICU における終末期ケアの QI (表 3)

Keay ら ナーシングホームにおける医師のケアのパフォーマンスをモニタリングする QI (表 4)

Emmett 地域ベースの QI (表 5)

## 4 . 患者調査・遺族調査から得られる質の指標

満足度は最終的なアウトカムの 1 つと考えられてはいるものの、満足度が何を表現する指標であるかその理論的背景が明らかでないこと、満足度の測定方法に確立したものが存在しないため、質の指標とすることは海外では意見が分かれている。

おわりに

わが国では、現場の多忙や、緩和ケアの評価は患者・家族の主観的判断との考え、がん登録システムなどデータベースの整備不十分などを背景として、緩和ケアの質を客観的に評価する取り組みはほとんど行なわれていない。わが国の現状に沿った QI の測定方法の開発とその実施可能性・信頼性・妥当性の検証が今後望まれる。